



朝晩はもう涼しい今日この頃、新型インフルエンザも流行っていますが、みなさんも風邪をひかないように対策などをしっかりして気をつけて、楽しい毎を送りたいですね。新しい期の39期が始まりました。心機一転して行きましょう！

未来創造

9月に入り、何とか無事に第39期を迎えることができましたことを先ずもってありがたく皆さんに感謝申し上げます。さて、前期の成績を振り返って一言で言うと弱さを露呈した年であったと言えます。世界同時不況の波が押し寄せたから余計にその感を強くするわけで、荒波にもびくともしない会社づくりが急務と痛感する次第です。“何とか無事に”はその思いがあります。

来期は、記念すべき40周年を迎えます。輝かしい新たなスタートとすべく緊張感、危機感をもって強力な改善を進めていく所存です。皆が幸せになる潰れない会社に向かって共に邁進していこうではありませんか。

当社が新しい期に入ると同時に、政局も大きく変わりました。8月30日に2009衆院選が行われ、その結果は民主党の大勝で終わり新聞紙上には多くの見出しが躍りました。その中でどうしても目に付くものは経営に通じる類です。『お友達の集団で緊張感が無かった』、『変化の期待に敏感でなかった』、『自民王国一瞬で消滅』、『若手へバトンタッチ』などです。敗戦の原因はいずれも同じで、世情の変化を読めず、ぬるま湯に浸かっていたら危機管理などは思いもせず、気がついたら全てを失っていたということと本当にゾッとします。スポーツの世界では、敗戦の弁でよく出てくる『相手のほうが、勝とうという気持ちが強かった』があります。考えてみれば、どんな世界でもこれらは昔から変わらぬ基本的敗因であるわけで、ここさえ抑えておけば経営はそんなに難しいものではないような気がします。

『若手へのバトンタッチ』は敗戦の言い訳とはいえ、大変重みのある言葉です。民主党が獲得した308議席のうち半数近くがはじめて当選した若手です。国政に携わるには大いに不安を感じますが、頑張っって新しい息吹を吹き込んで欲しいと願うばかりです。

当社も次代を背負う人材が育ってくれることを期待しています。私は、60歳とまだまだ若いですが、10年後は70歳です。これを一区切りと考え、バトンタッチをするつもりです。この10年間を20年分ぐらい急ぎ足で濃密な仕事をこなしていきたいと決意しています。

その一環として、中堅クラスの皆さんを対象に『育成塾』なるものを開講します。私が塾長になり私なりの経営に対する考えなどを伝え、ディスカッションを交え共に勉強し10年後のあるべき姿を模索していきたいと考えています。



倅芳太郎のこと。この9月から会社にお世話になります。勿論、事業の承継者として考えていますが、全くの未知数でありその能力を培っていけるのか親としては正直不安ではあります。私は、幼い頃実父を亡くし顔も憶えていません。したがって、父と息子はどう向き合って育てていけばいいのかよく分かりませんでした。まあ、言ってみれば放ったらかし状態でいままできています。“ありがとう”の言葉ぐらいは教えましたかね。

卒業後、3年間、アトムメディカル株式会社社殿という医療機器メーカーにお世話になり、生産技術部に所属し社会人としての勉強をさせていただきました。詳しいことは私は知りませんが本人から聞いてください。どうか、社員皆さんの厳しいご指導を切にお願いする次第です。

今期は、前期に増してより一層厳しい経営を強いられると覚悟しています。大手企業の統合による生産設備の縮小、海外への生産設備移行、少子化・高齢化社会、利益配分の不均衡、競争の激化など多くの負の要素があります。しかし、この中をうまく乗り越えた暁には明るい未来を獲得できるものと確信しています。

【もっと意識を変え、もっとやり方を変え、厳しい仕事を通じて明日の経営を築こう！】

社長 赤堀肇紀